独立行政法人国立病院機構
長良医療センター

別紙2

重症心身障害児者の地域生活モデル事業実施計画書

団　体　名	独立行政法人国立病院機構
施　設　名	長良医療センター
所　在　地	岐阜県岐阜市長良１３００番地７
事業担当者	
連　絡　先	
メールアドレス	

国庫補助所要額	4,3000千円
事業実施予定期間	平成２６年　６月　１日　　から　平成２７年　３月３１日
事業の目的	在宅で重症心身障害児者の医療的ケアを行っている家族の負担は重く、その軽減は喫緊の課題である。本事業では、在宅療養児の家族の負担軽減を図るために、岐阜県における短期入所事業の現状と課題を明らかにするとともに、短期入所を中心とするレスパイト事業の拡充を行う。さらに、岐阜県における重症心身障害児者の救急医療のネットワークの構築に向けて取り組む。
事業内容及び手法 ① 重症心身障害児者の実態把握や地域資源の把握	重症心身障害児者の実態や地域資源については、岐阜県が今まで行ってきた調査をもとに、全体像を把握する。さらに新たに、短期入所を行っている施設に、年齢、利用回数、重症度などについて調査し、現状と課題について明らかにする。また、岐阜県と協力して短期入所を利用していない在宅療養児の実態を調査する。
② 協議会の設置、コーディネートする者の配置（人数や勤務体制等）や役割	国立病院機構長良医療センター　（5人）医師2人、福祉2人、看護師1人 岐阜大学障害児者医療寄付講座　（1人）医師1人 岐阜県立希望ヶ丘学園　（1人）医師1人、福祉1人 岐阜県総合医療センター　（1人）医師1人 岐阜県で小児在宅医療を行っている開業医（2人）医師2人 岐阜県健康福祉部　（2人） 短期入所を行っている長良医療センター、希望ヶ丘学園と本年度より発足した岐阜大学の障害児者医療寄付講座、開業医と行政が協力し、レスパイト事業を推進するための現状と課題について包括的に協議する。 多職種との連携を行うために、医療と福祉に精通したコーディネーター２名を配置する。

③ 選んだテーマの事業内容及び手法 テーマ （ウ 家族支援）	家族支援は岐阜県の重症心身障害児者の様々な課題のうち最重要課題である。短期入所を中心とするレスパイト事業の拡充を達成するため以下の事業を行う。 まず、岐阜県の短期入所事業に関して、各施設に対して年齢、利用回数、重症度、入所中の問題点等につき詳細な調査を行い協議会の中で検討し、現状と課題を明らかにする。この中で、岐阜県と協力して短期入所を利用していない在宅療養児、家族や潜在的利用者の実態も明らかにする。さらに、本協議会の中で重症心身障児者医療の救急医療のネットワークについても現状と課題を抽出しその構築にむけて取り組む。 病院、診療所が短期入所事業に取り組みやすくするため、入所から退所までの一連の流れについて、注意すべき点などを記載したマニュアルを作製する。 また、在宅療養児の家族のために、短期入所とは、どのようなものであるのか、利用する際に注意すべき点などをわかりやすく記載した短期入所の利用の手引きを作製し、配布する。 家族と医療機関の連携を円滑におこなうために、医療と福祉に精通したコーディネーターを配置し多職種を連携させ、包括的に家族支援を行う。 以上の事業を行うことで在宅療養児とその家族の生活の質の向上を図る。

別紙３

重症心身障害児者の地域生活モデル事業所要額内訳書

１　国庫補助所要額

総支出予定額 (A)	寄付金その他の収入等 (B)	差し引き所要額 (A-B)	国庫補助所要額
4,300円	0円	4,300円	4,300千円

※「補助金所要額」は、「差し引き所要額」の千円未満の額を切り捨てた額を記入すること。

２　総支出予定額の内訳

区　分	支出予定額	積　算　内　訳
	円	
報　酬 賃　金	2,730,600	コーディネーター業務、相談業務、調査票作成等 ２名　1,210 円/時間×６時間×20 日×9 ヶ月＝ 1,306,800 円　　1,306,800 円×２＝2,613,600 円 通勤手当　１名　片道 10km～15km 6,500 円 ×9 ヶ月＝58,500 円 58,500 円×２＝117,000 円
共済費	381,630	社会保険料　68,197 円 厚生年金　112,037 円 介護保険料　10,581 円 190,815 円×２＝381,630 円
諸謝金	80,000	協議会講演 大学教授 50,000 円交通費 30,000 円
旅　費	50,000	協議会開催（3 回分）　50,000 円
需用費 消耗品費	60,270	文具　10,270 円 ＵＳＢメモリ　10×5,000 円＝　50,000 円
印刷製本費	799,000	A4 用紙　10,000 円 マニュアル　1,000 部　395,000 円 手引き　1,000 部　394,000 円
役務費 通信運搬費	179,000	宛名ラベル　5 セット　7,880 円 封筒（角３号）　2000 枚　7,120 円 郵便切手　2000 枚×82 円＝164,000 円
会議費	19,500	飲料　150 円×2 回×40 人＝12,000 円 飲料　150 円×1 回×50 人＝7,500 円
使用料及び賃借料	0	
合　計	4,300,000 円	

3　寄付金その他の収入等の内訳

区分	収入等予定額	積　算　内　訳
	円	
団体の自己資金		
寄付金		
参加費		
その他		
合　　計	0円	

別紙4

事業実施スケジュール表

団　体　名:独立行政法人国立病院機構長良医療センター

	平成26年4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業実施内容			○協議会準備 ・関係機関調整	○第1回会議 ・短期入所マニュアル 内容、役割分担の検討 ・利用の手引き 内容、役割分担の検討 ・調査用紙の内容の検討、決定		○調査用紙配布

	10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
事業実施内容	○第2回会議 ・短期入所マニュアル 内容、役割分担の決定 ・利用の手引き 内容、役割分担の決定	○調査用紙回収・集計	○分析		○第3回会議 ・短期入所マニュアル修正・完成 ・利用の手引き修正・完成 ○調査結果報告	○事業評価

(記入上の留意事項)

上記記載例を参考に、いつ・何をするか具体的なスケジュールを記載すること。

平成26年度重症心身障害児者の地域生活モデル事業（家族支援）

金子英雄[1)]、山田堅一[2)]
国立病院機構長良医療センター
1）臨床研究部長、2）院長

平成26年9月1日　9時30分～　厚生労働省合同庁舎5号館

事業の目的

在宅で重症心身障害児者の医療的ケアを行っている家族の負担は重く、その軽減は喫緊の課題である。本事業では、在宅療養児の家族の負担軽減を図るために、岐阜県における短期入所事業の現状と課題を明らかにするとともに、短期入所を中心とするレスパイト事業の拡充を行う。

さらに、岐阜県における重症心身障害児者の救急医療のネットワークの構築に向けて取り組む。

事業の概要

家族支援は岐阜県の重症心身障害児者の様々な課題のうち最重要課題である。短期入所を中心とするレスパイト事業の拡充を達成するため以下の事業を行う。

まず、岐阜県の短期入所事業に関して、各施設に対して年齢、利用回数、重症度、入所中の問題点等につき詳細な調査を行い協議会の中で検討し、現状と課題を明らかにする。この中で、岐阜県と協力して短期入所を利用していない在宅療養児、家族や潜在的利用者の実態も明らかにする。さらに、本協議会の中で重症心身障児者医療の救急医療のネットワークについても現状と課題を抽出しその構築にむけて取り組む。

病院、診療所が短期入所事業に取り組みやすくするため、入所から退所までの一連の流れについて、注意すべき点などを記載したマニュアルを作製する。

また、在宅療養児の家族のために、短期入所とは、どのようなものであるのか、利用する際に注意すべき点などをわかりやすく記載した短期入所の利用の手引きを作製し、配布する。

家族と医療機関の連携を円滑におこなうために、医療と福祉に精通したコーディネーターを配置し多職種を連携させ、包括的に家族支援を行う。

以上の事業を行うことで在宅療養児とその家族の生活の質の向上を図る。

重症心身障害児者
モデル事業協議会の開催

重症心身障害児者モデル事業協議会

平成26年度重症心身障害児者の地域生活モデル事業協議会
第1回協議会
平成26年7月26日（土）
11:00～　グランベール岐山

報告事項
1）重症心身障害児者の地域生活モデル事業実施計画についての概要説明
2）岐阜県の取り組みについての概況説明
3）その他

協議事項
1）レスパイト入院について
2）その他

次回、開催日について

重症心身障害児者モデル事業協議会

国立病院機構長良医療センター
- 山田堅一　院長
- 水津　博　副院長
- 金子英雄　臨床研究部長
- 眞田 正世　看護部長
- 愛田 弘美　療育指導室長
- 下平悦子　国立病院機構長良医療センター医療社会事業専門員
- 久保美穂子　国立病院機構長良医療センター専門職

岐阜大学障がい児者医療学寄附講座
- 西村悟子　准教授

岐阜県総合医療センター
- 河野芳功　主任部長・新生児医療センター長　新生児内科部長

岐阜県医師会
- 矢嶋茂裕　岐阜県医師会常務理事

県立希望ヶ丘学園
- 内木洋子　小児科医師

岐阜県
- 都竹淳也　岐阜県健康福祉部　障がい児者医療推進室長

重症心身障害児者モデル事業協議会

岐阜県の短期入所に関わる機関を委員とした。

岐阜県総合医療センターは、岐阜県の小児救急の中心的役割を果たしており、また、平成27年度より重心病棟を設置するため参加。

課題点

・岐阜県が行っている支援会議との整合性。

・長良医療センターでの短期入所利用の理由として保護者の整形外科科的な手術（特に手根管症候群）をあげる回答が5名あった。保護者への肉体的及び精神的な長期のサポートが必要である。→アンケート調査を予定

コーディネーターの配置

家族と医療機関の連携を円滑におこなうために、医療と福祉に精通したコーディネーターを配置

愛田弘美　長良医療センター療育指導室長(社会福祉士)
下平悦子　長良医療センター医療社会事業専門員(社会福祉士)
久保美穂子　長良医療センター専門職
宮原樹　長良医療センター　8月1日から非常勤 で採用

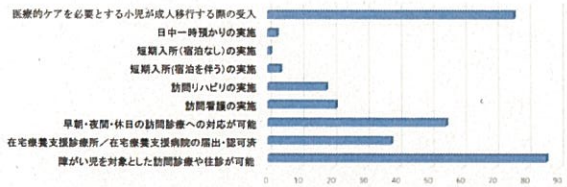
長良医療センターは岐阜県下で超重症児の短期入所をおこなっている主要な施設である。コーディネーターは長良医療センターのみでなく岐阜県下の短期入所の窓口になっている。コーディネーターのエフォートは約50%。

課題としては、岐阜県下の施設の役割分担を行うことで、医療スタッフのマンパワー不足を補う必要性がある。

選択したテーマの実践

・小児在宅医療の現状について岐阜県の調査を基に解析している。

岐阜県における小児在宅診療の現状(診療所)



・重症心身障害児者の受けている医療的ケア、内服薬などを記載した「かけはしノート」の普及を行い救急での診察が円滑に進むようにする。

第 6 回小児在宅医療実技講習会のご案内

第 6 回小児在宅医療実技講習会を開催致します。平成 24 年 7 月の第 1 回（大阪）、平成 25 年 3 月の第 2 回（埼玉）、平成 25 年 8 月第 3 回（福岡）、平成 26 年 2 月第 4 回（仙台）、平成 26 年度第 5 回（埼玉）に続いて、今回は東海地方での初開催です。小児在宅医療の基礎知識と基本技術の習得が目的の医師を対象とした講習会です。小児の在宅医療に興味をお持ちの先生の参加をお待ちしています。

共　催　：日本小児科学会
三重大学病院小児トータルケアセンター
名古屋大学大学院医学系研究科障害児（者）医療学寄附講座
岐阜大学障がい児者医療学寄附講座

後　援　：日本小児神経学会　赤ちゃん成育ネットワーク
新生児医療連絡会　日本小児在宅医療支援研究会
岐阜県小児科医会　岐阜県医師会
三重県小児科医会　三重県医師会
愛知県小児科医会　愛知県医師会
長良医療センター　愛知県心身障害者コロニー
名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター

実行委員長：早川昌弘
（名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 新生児部門　教授）

日　時　平成 26 年 8 月 3 日（日曜日）10：00～16：50
場　所　名古屋大学医学部附属病院　中央診療棟３階講堂
〒466-8550　愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地
052-744-2111
対　象　小児在宅医療に興味をお持ちの医師
募集人数　60 名
申込締切　平成 26 年 6 月 30 日
※ただし、申込者が 60 名に達した時点で締め切ります
参加費　5000 円（テキストと昼食代込み）

問講習会についてのご質問・お問い合わせ
〒466-8550　愛知県名古屋市昭和区鶴舞 65 番地
名古屋大学大学院医学系研究科
障害児（者）医療学寄附講座　三清清邦
E-Mail：kiyokuni@med. nagoya-u. ac. jp

長良医療センターから
3名の医師をチューターとして派遣し
在宅医療に携わる地域の医師の医療的ケアの技術指導を行った。

岐阜県の障害児者医療に関わる多職種の医療関係者のレベルアップを図るため障害児者医療従事者育成シンポジウムを開催した。

まとめ

- 重症心身障害児者モデル事業協議会を立ち上げ、協議会を開催した。
- 短期入所事業が円滑に進むようコーディネーターを配置し、家族と医療機関の連携調整を進めている。
- 障害児者の家族支援に繋がる講演会、講習会を実施している。
- 肉体的及び精神的面から長期の家族支援を行う必要がある。